

鹿児島大学 高等教育研究開発センター・生涯部門(奄美リカレント教育)

令和4年度  
奄美環境文化教育プログラム  
シラバス(講義概要)

受講科目一覧

	科目番号	科目名	時間(h)	講義形態	開催日	講師	講師の所属
文化と歴史から読み解く 環境文化	101	奄美の環境文化入門	1.5	ライブ授業	10/23(日)	小栗有子	鹿児島大学法文学部
	102	奄美の環境文化の基礎1	1.5	動画視聴	10/23(日)~3/19(土)	高梨修・久伸博	奄美市立奄美博物館
	103	奄美の環境文化の基礎2	1.5	動画視聴	10/23(日)~3/19(土)	高梨修・久伸博	奄美市立奄美博物館
	104	奄美の環境文化の基礎3	1.5	動画視聴	10/23(日)~3/19(土)	高梨修・久伸博	奄美市立奄美博物館
	105	奄美のシマ遺産入門	1.5	動画視聴	10/23(日)~3/19(土)	久伸博	奄美市立奄美博物館
	106	環境文化総合討論1	2.5	ライブ授業	11/6(日)	小栗・久	
自然から読み解く 環境文化	107	奄美の暮らしを支える自然1(水域生態系)	1.5	動画視聴	10/23(日)~3/19(土)	山本智子	鹿児島大学水産学部
	108	奄美の暮らしを支える自然2(森林生態系)	1.5	動画視聴	10/23(日)~3/19(土)	鶴川信	鹿児島大学農学部
	109	奄美群島国立公園から読み解く島々の個性	1.5	動画視聴	10/23(日)~3/19(土)	則久雅司	環境省自然環境局 国立公園課
	110	奄美の地図、地形の読み方	1.5	動画視聴	10/23(日)~3/19(土)	小林善仁	鹿児島大学法文学部
	111	環境文化総合討論2	1.5	ライブ授業	11/18(金)19時~20時30分	山本・鶴川	
	112	環境文化総合討論3	1.5	ライブ授業	12/6(火)19時~20時30分	則久・小林	
創造環境と協働文化の成	113	社会教育経営論1	3	ライブ授業	11月27日(日)	小栗有子	鹿児島大学法文学部
	114	社会教育経営論2	2	ライブ授業	1月25日(水)※夜間実施予定	小栗有子	鹿児島大学法文学部
	115	生涯学習支援論1	3	ライブ授業	12月3日(土)	酒井祐輔	鹿児島大学法文学部
	116	生涯学習支援論2	1.5	ライブ授業	1月11日(水)※夜間実施予定	酒井祐輔	鹿児島大学法文学部
	117	経済の視点から考える環境文化	3	ライブ授業	2月5日(日)	小栗・馬場武・佐野雅昭	鹿児島大学法文学部 鹿児島大学水産学部
環境文化を体験する	118	奄美環境文化実習(奄美大島)	12	現地実習	12/17(土)~12/18(日)	小栗ほか	
	119	奄美環境文化実習(徳之島)	12	現地実習	1/7(土)~1/8(日)	小栗ほか	
	120	奄美環境文化実習(与論島)	12	現地実習	1/21(土)~1/22(日)	小栗ほか	
	121	奄美環境文化実習(喜界島)	12	現地実習	1/28(土)~1/29(日)	小栗ほか	
	122	奄美環境文化実習(沖永良部島)	12	現地実習	2/11(土)~2/12(日)	小栗ほか	
	123	環境文化総合討論4	2	ライブ授業	調整中(2月中旬予定)	小栗ほか	
実生活環境に文化を つなげる	124	修了課題1(環境文化を実装するために)	3	ライブ授業	2月26日(日)	小栗ほか	
	125	修了課題2(環境文化を実装するために)	3	ライブ授業 +各島対面参加	調整中(3月初旬予定)	小栗ほか	
	126	課題発表(環境文化を実装するために)	2.5	ライブ授業	3月19日(日)	小栗ほか	

## 奄美環境文化教育プログラム シラバス

基幹プログラム:文化と歴史から読み解く環境文化					
科目名	奄美の環境文化入門	科目番号	101	時間数	1.5 時間
担当講師	小栗有子				
所属・職名	鹿児島大学法文学部・准教授				
目的・内容	<p>講義の目的は、奄美の「環境文化」の概要を解説することを通して、奄美の「環境文化」の意義とその可能性について理解を深め、これからの学習(残りの講義)に備えることです。</p> <p>講義では、</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>① 「環境文化」概念が登場する背景</li> <li>② 「環境文化」をめぐるこれまでの取組</li> <li>③ 「環境文化」の今後の可能性の三つの観点から論じます。</li> </ol>				
受講方法	<p><input checked="" type="checkbox"/> ライブ授業</p> <p>ZOOM アプリを使った同時配信・参加型の授業です。                      マイクで声を出せる環境をご準備ください。カメラで顔を出せる環境も推奨します。                      (ZOOM の ID は、『eden』のお知らせ機能を通じて、通知します)                      ※講義で録画し、後日、期間中いつでも視聴できるようにします。</p>				
事前に読んでおくと授業の理解の手助けになる図書	<p>養老孟司・C・W ニコル・兼高かおるほか『屋久島 知の巨人たち ムック』キルティ株式会社、2022。鹿児島大学鹿児島環境学編『奄美大島の100人 100の環境文化』南方新社(2022発刊予定)。</p>				
自己紹介	<p>専門は、社会教育学と環境教育学です。社会環境だけでなく、自然環境との関わりが人の成長(自己形成)に与える作用について研究しています。奄美との出会いは 2010 年からで、環境問題をテーマに奄美の方との共同研究や学習機会の創出に従事してきました。活動の一端は、次に紹介されています。</p> <p><a href="https://kagoshima-kankyogaku.jimdosite.com/">https://kagoshima-kankyogaku.jimdosite.com/</a></p>				
受講生へ一言	<p>奄美の「環境文化」は、静的なものではなく、過去から現在にかけて変容し、これからも創造し続けるものだと思います。奄美の「環境文化」を切り口にして、奄美群島のことを深く理解し、豊かな島・シマづくりに向けて仲間と一緒に考えていける場にしていただけたらと思っています。皆さんとの一期一会の出会いを楽しみにしております。</p>				

## 奄美環境文化教育プログラム シラバス

基幹プログラム:文化と歴史から読み解く環境文化					
科目名	奄美の環境文化の基礎 1	科目番号	102	時間数	1.5 時間
担当講師	高梨 修				
所属・職名	奄美市立奄美博物館・前館長				
目的・内容	<p>講義の目的は、奄美群島の文化の特徴をよく理解し、観光や産業に応用できるような付加価値を考える視点を身につけることです。そのための方法として、「環境文化」という概念を理解しながら、それを奄美群島に適用して、各島で営まれている文化を俯瞰的に解説していきます。</p> <p>「基礎 1」では、奄美群島として括られる島嶼地域の文化の諸相を概観し、その等質性と異質性について論じます。まず自分たちの立ち位置を確認して、自分たちの環境文化に向き合います。</p>				
受講方法	<p><input checked="" type="checkbox"/>動画視聴</p> <p>e ラーニング学習管理システム(LMS)『eden』から視聴してください。</p> <p>※講義は期間中いつでも視聴できます。</p>				
事前に読んでおくと授業の理解の手助けになる図書	<p>奄美市立奄美博物館編、『博物館が語る奄美の自然・歴史・文化』、南方新社、2021 年                  松下志朗・下野敏見編、街道の日本史 55『鹿児島島の湊と薩南諸島』、吉川弘文館、2002 年                  小野寺浩、「文化環境論という考え方—奄美という地域について—」、                  『スタディレポート』No.14、プレック研究、2009 年  <a href="http://www.prec.co.jp/research/report/no14.html">http://www.prec.co.jp/research/report/no14.html</a></p>				
自己紹介	<p>専門分野は、考古歴史分野と文化生態学です。奄美・沖縄地域を主要フィールドとしながら、自然的、歴史的環境がどのような文化や社会を醸成してきたのか、環境文化論、境界領域論、政治文化論を勉強しています。</p> <p>東京生まれの東京育ちですが、沖縄通いは 40 年、奄美大島暮らしは 30 年が経過しました。地域博物館の学芸員として、分野にとらわれず、「奄美を知る手がかり」となる資料については、何でも調査研究してきました。若い学芸員たちと「奄美授業」の教育活動にも取り組んでいます。その一端はこちらでもご覧になれます。</p> <p>YouTube 奄美博物館公式チャンネル  <a href="https://www.youtube.com/channel/UCV5JwKdpXfWBBbvSax-OcFg/videos">https://www.youtube.com/channel/UCV5JwKdpXfWBBbvSax-OcFg/videos</a></p>				
受講生へ一言	<p>奄美・沖縄 4 島が、世界自然遺産に登録され、今後の奄美における文化観光は、奄美と沖縄の異質性を理解し、いかにアピールできるかが重要になると考えています。その際、奄美の特徴を理解し、発信できる考え方が「環境文化論」です。受講生のみなさんと、奄美の新しいブランディングに取り組んでいきたいと思っています。</p>				

## 奄美環境文化教育プログラム シラバス

基幹プログラム:文化と歴史から読み解く環境文化					
科目名	奄美の環境文化の基礎 2	科目 番号	103	時間 数	1.5 時間
担当講師	高梨 修				
所属・職名	奄美市立奄美博物館・前館長				
目的・内容	<p>講義の目的は、奄美群島の文化の特徴をよく理解し、観光や産業に応用できるような付加価値を考える視点を身につけることです。そのための方法として、「環境文化」という概念を理解しながら、それを奄美群島に適用して、各島で営まれている文化を俯瞰的に解説していきます。</p> <p>「基礎 2」では、奄美群島と括られる島嶼地域について、その地質と形から「山の島」「台地の島」に分類して概観し、自然環境と人の暮らしの関わりについて論じます。奄美群島の各島の個性を、自然的環境から掘り下げていきます。</p>				
受講方法	<p><input checked="" type="checkbox"/>動画視聴</p> <p>e ラーニング学習管理システム(LMS)『eden』から視聴してください。 ※講義は期間中いつでも視聴できます。</p>				
事前に読んでおくと 授業の理解の手助け になる図書	<p>奄美市立奄美博物館編、『博物館が語る奄美の自然・歴史・文化』、南方新社、2021年 高梨修、『知られざる奄美諸島史のダイナミズム—奄美諸島の考古資料をめぐる新しい 解読作業の試み』、『沖縄文化研究』27、法政大学沖縄文化研究所、2001年 <a href="https://core.ac.uk/download/pdf/223202932.pdf">https://core.ac.uk/download/pdf/223202932.pdf</a> 基俊太郎、『島を見直す』、南海日日新聞社、1993年</p>				
自己紹介	科目番号102と同じ。				
受講生へ一言	科目番号102と同じ。				

## 奄美環境文化教育プログラム シラバス

基幹プログラム:文化と歴史から読み解く環境文化					
科目名	奄美の環境文化の基礎 3	科目番号	104	時間数	1.5 時間
担当講師	高梨 修				
所属・職名	奄美市立奄美博物館・前館長				
目的・内容	<p>講義の目的は、奄美群島の文化の特徴をよく理解し、観光や産業に応用できるような付加価値を考える視点を身につけることです。そのための方法として、「環境文化」という概念を理解しながら、それを奄美群島に適用して、各島で営まれている文化を俯瞰的に解説していきます。</p> <p>「基礎 3」では、旧石器時代から現代まで、奄美群島 3 万年の歴史を辿り、日本国内でも特異な行政統治が繰り返されてきた歴史を解説します。そして、その歴史的環境が醸成してきた奄美群島の文化について論じます。奄美群島の文化を、歴史的環境から掘り下げていきます。</p>				
受講方法	<p><input checked="" type="checkbox"/> 動画視聴</p> <p>e ラーニング学習管理システム(LMS)『eden』から視聴してください。</p> <p>※講義は期間中いつでも視聴できます。</p>				
事前に読んでおく 授業の理解の手助け になる図書	<p>奄美市立奄美博物館編、『博物館が語る奄美の自然・歴史・文化』、南方新社、2021 年 高梨修、「知られざる奄美諸島史のダイナミズム—奄美諸島の考古資料をめぐる新しい 解読作業の試み」、『沖縄文化研究』27、法政大学沖縄文化研究所、2001 年 <a href="https://core.ac.uk/download/pdf/223202932.pdf">https://core.ac.uk/download/pdf/223202932.pdf</a> 小野寺浩、「文化環境論という考え方—奄美という地域について—」、 『スタディレポート』No.14、プレック研究、2009 年 <a href="http://www.prec.co.jp/research/report/pdf/14008.pdf">http://www.prec.co.jp/research/report/pdf/14008.pdf</a></p>				
自己紹介	科目番号102と同じ。				
受講生へ一言	科目番号102と同じ。				

## 奄美環境文化教育プログラム シラバス

基幹プログラム:文化と歴史から読み解く環境文化					
科目名	奄美のシマ遺産入門	科目番号	105	時間数	1.5 時間
担当講師	久伸博				
所属・職名	奄美市立奄美博物館				
目的・内容	この講座では、奄美群島は、どのような自然的環境や地理的環境があり、どのような歴史を辿り、どのような文化が醸成されてきたのか。奄美の自然・歴史・文化を理解するために欠かせない文化遺産群の理解を深めることを目的としています。				
受講方法	<input checked="" type="checkbox"/> 動画視聴 e ラーニング学習管理システム(LMS)『eden』から視聴してください。 ※講義は期間中いつでも視聴できます。(修了試験日除く)				
事前に読んでおくと授業の理解の手助けになる図書	<ul style="list-style-type: none"> <li>・『博物館が語る奄美の自然・歴史・文化』、奄美市立奄美博物館編、南方新社、2021 年</li> <li>・『琉球弧の視点から』島尾敏雄、講談社、1969 年</li> <li>・『沖縄・奄美と日本』谷川健一・大山麟五郎・高良倉吉、同成社、1986 年</li> <li>・『古代・中世の境界領域』池田榮史、高志書院、2008 年</li> <li>・『琉球の成立』吉成直樹、南方新社、2011 年</li> <li>・『薩摩侵攻 400 年未来への羅針盤』琉球新報社・南海日日新聞社編、琉球新報社、2011 年</li> <li>・『奄美復帰史』村山家国、南海日日新聞社、1971 年</li> <li>・『奄美の暮らしと儀礼』田畑千秋、第一書房、1992 年</li> <li>・『奄美の民俗』田畑英勝、法政大学出版局、1976 年</li> <li>・『奄美の文化』島尾敏雄編、法政大学出版局、1976 年</li> <li>・『奄美生活誌』恵原義盛、木耳社、1973 年</li> <li>・『島を見直す』基俊太郎、南海日日新聞社、1993 年</li> </ul> ほか、奄美に関する自然・歴史・文化に関する図書				
自己紹介	1960 年生まれ、両親は大島郡喜界町荒木出身。主に龍郷町で育つ。 1984 年 3 月、岡山理科大学基礎理学科人類学コースを卒業 1985 年 7 月、名瀬市(現奄美市)職員(学芸員)として採用。 1987 年 7 月、名瀬市立奄美歴史民俗資料館(現奄美市立奄美博物館)開館。 2021 年 3 月、奄美市職員(奄美市立奄美博物館)を定年退職 35 年 9 か月の勤務で主に民俗分野を中心に担当。併せて地域の自然や歴史的な背景から地域の文化、文化の変遷について学びを深めていきたいと考えている。				
受講生へ一言	奄美群島の非常に複雑な歴史的な背景や自然環境、地理的な環境を理解しながら地域の事を知る、知る手掛かりを探していきたいと思います。 先人たちが遺した断片的な事象(文化遺産)にどのような情報があるのか、引き出していくことに努めていきたいと考えています。				

## 奄美環境文化教育プログラム シラバス

基幹プログラム:文化と歴史から読み解く環境文化					
科目名	環境文化総合討論1	科目番号	106	時間数	2時間
担当講師	小栗有子・久伸博				
所属・職名	鹿児島大学法文・准教授 奄美市立奄美博物館・館長				
目的・内容	本講義は、奄美の環境文化入門(101)、奄美の環境文化の基礎1～3(102、103、104)、奄美のシマ遺産入門(105)の受講を踏まえた総合講義です。5つの科目を受講してわからなかったことや疑問等について、リアルタイムで直接解説するとともに、これらの講義を通して共通理解を深めるための意見交換を行います。講義の目的は、5つの科目について疑問を解消し、理解の定着をはかることです。				
受講方法	<input checked="" type="checkbox"/> ライブ授業 ZOOM アプリを使った同時配信・参加型の授業です。 マイクで声を出せる環境をご準備ください。カメラで顔を出せる環境も推奨します。 (ZOOMのIDは、『eden』のお知らせ機能を通じて、通知します) ※講義で録画し、後日、期間中いつでも視聴できるようにします。(修了試験日除く)				
事前に読んでおく と授業の理解の手助け になる図書	奄美の環境文化入門(101)、奄美の環境文化の基礎1～3(102、103、104)、奄美のシマ遺産入門(105)を必ず受講した上で、これらの科目の参考図書を参照してください。				
自己紹介	自己紹介は、101、105をそれぞれ参照してください。				
受講生へ一言	奄美の環境文化入門(101)以外は、動画視聴型講義ですので、この講義を通して、受講生の皆さんとリアルタイムで直接対話できることを講師一同楽しみにしております。講師同士の対話もぜひ楽しんでいただければと思います。				



## 奄美環境文化教育プログラム シラバス

基幹プログラム:自然から読み解く環境文化					
科目名	奄美の暮らしを支える自然1(水域生態系)	科目 番号	107	時間 数	1.5 時間
担当講師	山本 智子				
所属・職名	鹿児島大学水産学部・教授				
目的・内容	<p>講義の目的は、海岸の様々な場所に生息する生物を通して、奄美における陸と海の間を俯瞰することです。</p> <p>講義では、①黒潮が奄美群島の気候と森林植生に与える影響、 ②河川の影響を受ける沿岸生態系とそこに生息する生物の特徴、 ③沿岸生態系を維持する仕組み(生物相を中心に)とその危機、 についてお話しします。</p>				
受講方法	<p><input checked="" type="checkbox"/>動画視聴</p> <p>e ラーニング学習管理システム(LMS)『eden』から視聴してください。 ※講義は期間中いつでも視聴できます。</p>				
事前に読んでおくと 授業の理解の手助け になる図書	<p>『奄美大島の水生生物』鹿児島大学生物多様性研究会 南方新社、2019 『南西諸島の生物多様性、その成立と保全』日本生態学会編 南方新社、2015</p>				
自己紹介	<p>専門は動物生態学で、様々な生態系において複数種の集まり「群集」が、その環境とどのように関わって成立しているのかを明らかにする研究を行っています。</p> <p>奄美では、マングローブや干潟を調査地として、移動力の少ない底生動物(貝類や甲殻類などの無脊椎動物)を中心に、野外での調査を行っています。</p>				
受講生へ一言	<p>奄美の海岸と言えばサンゴ礁が代表的ですが、より浅い場所では、陸域と海域のつなぐ生物たちの営みが見られます。河川の多い奄美大島では重要な生態系ですが、一方で、人間による活動の影響を受けやすい場所でもあります。このような場の価値に少しでも目を向けて頂ければ幸いです。</p>				

## 奄美環境文化教育プログラム シラバス

基幹プログラム:自然から読み解く環境文化					
科目名	奄美の暮らしを支える自然(森林生態系)	科目番号	108	時間数	1.5 時間
担当講師	鵜川 信				
所属・職名	農学部 農林環境科学科・准教授				
目的・内容	<p>講義の目的は、奄美の森林生態系の概要説明を通して、奄美の自然の価値とその可能性について理解を深めることです。講義は、①奄美の森林生態系の成り立ち、②普遍的価値としての固有種の存在、③固有種の保全と人々の暮らしの3つに焦点を当てて森林生態系の説明を行います。</p>				
受講方法	<p><input checked="" type="checkbox"/>動画視聴 eラーニング学習管理システム(LMS)『eden』から視聴してください。 ※講義は期間中いつでも視聴できます。</p>				
事前に読んでおく 授業の理解の手助け になる図書	特にありません。				
自己紹介	<p>専門は、森林生態学と育林学です。森林に生育する樹木の生態や物質循環、人工林の造成について研究しています。奄美・徳之島では、2012年から研究をスタートし、森林の維持機構や希少種の生息環境、外来種の駆除方法について研究を進めてきました。また、2020年より、奄美大島の世界自然遺産地域における自然環境モニタリングシステムの構築に携わっています。</p>				
受講生へ一言	<p>奄美の森林生態系は、普遍的な価値を持つ固有種の存続に欠かせないものであるとともに、水や空気など多くの天然資源を地域にもたらしてくれます。これらの自然を守り、一方で、利用し、共生していくことが地域の未来、そして、人間社会の未来に繋がる取り組みになります。奄美の森林生態系を基盤とした社会創成の可能性を皆さんと探し、話し、共有できることを楽しみにしています。</p>				

## 奄美環境文化教育プログラム シラバス

基幹プログラム:自然から読み解く環境文化					
科目名	奄美群島国立公園から読み解く島々の個性	科目番号	109	時間数	1.5 時間
担当講師	則久雅司				
所属・職名	環境省自然環境局国立公園課長				
目的・内容	<p>2017年3月、奄美群島国立公園が指定されました。島々の個性ある自然景観は国立公園に指定され、そのうち、奄美大島と徳之島の森林地帯は2021年7月に世界自然遺産に登録されています。奄美群島では世界自然遺産が目玉ですが、国立公園は、元来、来訪者に非日常の感動体験を与える傑出した自然の風景地であり、島々によって異なる自然景観は、各島の重要な観光資源・文化資源でもあります。</p> <p>国立公園は、1931年の発足以降、指定の対象となる自然風景も時代の要請を受けて多様化してきています。最も新しい国立公園である奄美群島は、1974年指定の奄美群島国立公園の区域を大幅に拡充して指定されましたが、そこにも評価される風景の多様性が背景にあります。また、奄美群島国立公園の指定にあたっては、「生態系管理型」と「環境文化型」という2つの理念が設定されました。奄美群島の国立公園指定に至る歴史の変遷を振り返るとともに、各島々の個性を読み解いていきたいと思えます</p>				
受講方法	<p><input checked="" type="checkbox"/> 動画視聴</p> <p>eラーニング学習管理システム(LMS)『eden』から視聴してください。</p> <p>※講義は期間中いつでも視聴できます。(修了試験日除く)</p>				
事前に読んでおく授業の理解の手助けになる図書	<p>「世界遺産 奄美」 小野寺浩 著 南方新社 2022年</p> <p>「生物多様性鹿児島県戦略」 鹿児島県 2014年3月</p> <p><a href="https://www.pref.kagoshima.jp/ad04/kurashi-kankyo/kankyo/tayousei/senryaku02.html">https://www.pref.kagoshima.jp/ad04/kurashi-kankyo/kankyo/tayousei/senryaku02.html</a></p> <p>「鹿児島の100人100の風景」 鹿児島県環境林務部自然保護課、鹿児島大学鹿児島環境学研究会 2013年</p>				
自己紹介	<p>1967年香川県生まれ、1992年に環境庁に自然保護系技官(レンジャー)として入庁し、国立公園や世界自然遺産の保護管理、外来生物法制定や自然公園法改正、野生鳥獣管理、外来種対策、希少種保護、鳥インフルエンザ対策、ペット等の動物愛護管理、福島の環境再生事業などに関わってきました。鹿児島県庁には、2011年7月から2015年3月まで自然保護課長として勤務しました。奄美群島は非常に心に残る思い出ばかりで、東京では、黒糖焼酎のお店に同僚や友人を誘うのが趣味となっています。</p>				
受講生へ一言	<p>環境文化の原点は、西洋近代文明がかつて否定してきたアニミズム的自然観、つまり自然との共生と言われる思想にあると考えています。その共生思想を、日常の中に受け継いでいる社会が奄美群島にあるのではないかと考えています。個人的に考えてきた私論も御紹介しつつ、自然と環境文化の関わりを考えていただくきっかけにしたいと思います。</p>				

## 奄美環境文化教育プログラム シラバス

基幹プログラム:自然から読み解く環境文化					
科目名	奄美の自然・地理の読み方と地図	科目 番号	110	時間 数	1.5 時間
担当講師	小林 善仁				
所属・職名	鹿児島大学法文学部人文学科・准教授				
目的・内容	<p>講義の目的は、地域の環境を記した新旧の地形図を資料として、これらの解説から身近な地域の環境と地域の景観変化に関する理解を深めることです。</p> <p>講義では、①二つの「環境」の捉え方、②地形図という資料と使い方、③地形図にみる地域の変化について話します。</p>				
受講方法	<p><input checked="" type="checkbox"/>動画視聴</p> <p>eラーニング学習管理システム(LMS)『eden』から視聴してください。</p> <p>※講義は期間中いつでも視聴できます。</p>				
事前に読んでおく 授業の理解の手助け になる図書	特になし				
自己紹介	<p>専門は人文地理学・歴史地理学です。研究の資料として古地図(絵図・地形図など)を使い、京都の寺院・神社の境内地や鹿児島島の城下町などの景観を研究しています。</p>				
受講生へ一言	<p>「環境」という言葉は、「自然環境」の意味で捉えられがちですが、それだけではありません。「奄美」という地域における人文・社会的環境の変化が、人々の生活や地域の景観に対してどのような影響をもたらしたのか、地形図などの地理資料から一緒に考えましょう。</p>				

## 奄美環境文化教育プログラム シラバス

基幹プログラム:自然から読み解く環境文化					
科目名	環境文化総合討論2	科目 番号	111	時間 数	1.5 時間
担当講師	山本 智子 鵜川 信				
所属・職名	鹿児島大学水産学部・教授 鹿児島大学農学部・准教授				
目的・内容	本講義は、奄美の自然と暮らし1(水域生態系)(107)、奄美の自然と暮らし2(森林生態系)(108)の受講を踏まえた総合講義です。2つの科目を受講してわからなかったことや疑問等について、リアルタイムで直接解説するとともに、これらの講義を通して共通理解を深めるための意見交換を行います。講義の目的は、2つの科目について疑問を解消し、理解の定着をはかることです。				
受講方法	<input checked="" type="checkbox"/> ライブ授業 ZOOM アプリを使った同時配信・参加型の授業です。 マイクで声を出せる環境をご準備ください。カメラで顔を出せる環境も推奨します。 (ZOOMのIDは、『eden』のお知らせ機能を通じて、通知します) ※講義で録画し、後日、期間中いつでも視聴できるようにします。				
事前に読んでおくと 授業の理解の手助け になる図書	奄美の自然と暮らし1(水域生態系)(107)、奄美の自然と暮らし2(森林生態系)(108)を必ず受講した上で、これらの科目の参考図書を参照してください。				
自己紹介	自己紹介は、107、118 をそれぞれ参照してください。				
受講生へ一言	疑問やわからないことがあれば、是非この講義でお尋ねください。講師一同、受講生の皆さんと対話できることを楽しみにしております。				

## 奄美環境文化教育プログラム シラバス

基幹プログラム:自然から読み解く環境文化					
科目名	環境文化総合討論3	科目番号	112	時間数	1.5 時間
担当講師	則久 雅司 小林 善仁				
所属・職名	環境省環境省自然環境局国立公園課長 鹿児島大学法文学部・准教授				
目的・内容	本講義は、奄美群島国立公園から読み解く島々の個性(107)、奄美の自然・地理の読み方と地図(108)の受講を踏まえた総合講義です。2つの科目を受講してわからなかったことや疑問等について、リアルタイムで直接解説するとともに、これらの講義を通して共通理解を深めるための意見交換を行います。講義の目的は、2つの科目について疑問を解消し、理解の定着をはかることです。				
受講方法	<input checked="" type="checkbox"/> ライブ授業 ZOOM アプリを使った同時配信・参加型の授業です。 マイクで声を出せる環境をご準備ください。カメラで顔を出せる環境も推奨します。 (ZOOM の ID は、『eden』のお知らせ機能を通じて、通知します) ※講義で録画し、後日、期間中いつでも視聴できるようにします。				
事前に読んでおく授業の理解の手助けになる図書	奄美群島国立公園から読み解く島々の個性 (109)、奄美の自然・地理の読み方と地図(110) を必ず受講した上で、これらの科目の参考図書を参照してください。				
自己紹介	自己紹介は、109、110 をそれぞれ参照してください。				
受講生へ一言	疑問やわからないことがあれば、是非この講義でお尋ねください。講師一同、受講生の皆さんと対話できることを楽しみにしております。				

## 奄美環境文化教育プログラム シラバス

基幹プログラム:環境文化の創造と協働形成					
科目名	社会教育経営論 1	科目番号	113	時間数	3 時間
担当講師	小栗有子				
所属・職名	鹿児島大学法文学部法経社会学科・准教授				
目的・内容	<p>講義の目的は、奄美の「環境文化」を地域資源として利活用する際に見落としがちな問題を「環境文化」の担い手(創り手)の側に立って理解を深め、「環境文化」を持続的に利活用するための考え方と知識を身につけることです。講義では、社会教育の理念と「地元学」の観点から「環境文化」の担い手(創り手)と利活用をめぐる問題について論じます。「奄美環境文化実習」(118～122)の直前となるこの講義では、〈私たちは何のために「奄美環境文化」について学ぶのか〉について、奄美群島の社会経済状況等も踏まえながら受講生と一緒に確認していきます。</p>				
受講方法	<p><input checked="" type="checkbox"/>ライブ授業            ZOOM アプリを使った同時配信・参加型の授業です。            マイクで声を出せる環境をご準備ください。カメラで顔を出せる環境も推奨します。            (ZOOM の ID は、『eden』のお知らせ機能を通じて、通知します)            ※講義で録画し、後日、期間中いつでも視聴できるようにします。</p>				
事前に読んでおくと授業の理解の手助けになる図書	<p>鹿児島大学鹿児島環境学編『鹿児島環境学Ⅱ』南方新社、2010            吉本哲郎『地元学を始めよう』岩波ジュニア新書、2008            結城登美雄『地元学からの出発』農文協、2009</p>				
自己紹介	自己紹介は 101 と同じ。				
受講生へ一言	<p>奄美の「環境文化」の付加価値化と島・シマの発展をどのように結びつけて、考えればよいのでしょうか。また、そのことを考え、実行していく際に留意したほうがよいことは何でしょうか。このような問いについて、日本や奄美の開発の歴史を振り返りながら皆さんと一緒に考えてきたいと思います。</p>				

## 奄美環境文化教育プログラム シラバス

基幹プログラム:環境文化の創造と協働形成					
科目名	社会教育経営論 2	科目番号	114	時間数	2 時間
担当講師	小栗有子				
所属・職名	鹿児島大学法文学部法経社会学科・准教授				
目的・内容	<p>講義の目的は、「奄美環境文化実習」(118～120)の経験を振り返り、改めて社会教育経営1で扱った「環境文化」の担い手(創り手)の側に立って、「環境文化」の持続的な利活用をめぐる問題と可能性について確認することです。また、「環境文化」の持続的な利活用を地域の自立的発展に結びつけるために必要な協働形成について、社会教育の考え方や方法を紹介しながら考えていきます。</p>				
受講方法	<p><input checked="" type="checkbox"/>ライブ授業                      ZOOM アプリを使った同時配信・参加型の授業です。                      マイクで声を出せる環境をご準備ください。カメラで顔を出せる環境も推奨します。                      (ZOOM の ID は、『eden』のお知らせ機能を通じて、通知します)                      ※講義で録画し、後日、期間中いつでも視聴できるようにします。</p>				
事前に読んでおくと授業の理解の手助けになる図書	<p>山本珠美・熊谷慎之輔・松橋義樹編『社会教育経営の基礎』学文社、2021                      田中雅文・中村香『社会教育経営のフロンティア』玉川大学出版部 2019                      渡邊洋子『生涯学習時代の成人教育学』明石書店、2002</p>				
自己紹介	自己紹介は 101 と同じ。				
受講生へ一言	<p>「奄美環境文化実習」の折り返し地点で実施するライブ授業です。受講生の皆さんが実習で感じたことや学んだことを共有しながら、次の一歩に進むために何ができるのか、どのような可能性があるのか考えていきましょう。</p>				



## 奄美環境文化教育プログラム シラバス

基幹プログラム:環境文化の創造と協働形成					
科目名	生涯学習支援論 1	科目番号	115	時間数	3
担当講師	酒井 佑輔				
所属・職名	法文学部法経社会学科・准教授				
目的・内容	生涯学習支援論1は、奄美の「環境文化」について地域から学ぶための技法について「傾聴」や「対話」、「ファシリテーション」等のキーワードから掘り下げて考えます。グループワークを行いますので、Zoom でのビデオカメラをオンにし、声を出することができる環境での受講をお願いします。				
受講方法	<input checked="" type="checkbox"/> オンライン討議 ZOOM アプリを使った同時配信講義です。 マイクで声を出せる環境をご準備ください。カメラで顔を出せる環境も推奨します。 (ZOOM の ID は、『eden』のお知らせ機能を通じて、通知します) ※講義で録画し、後日、期間中いつでも視聴できるようにします。				
事前に読んでおく 授業の理解の手助け になる図書	東山紘久『プロカウンセラーの聞く技術』創元社、2000。 ・中田豊『対話型ファシリテーションの手ほどき』ムラのミライ、2015。 ・安斎勇樹・塩瀬隆之『問いのデザイン 創造的対話のファシリテーション』学芸出版社、2020。 ・ケネス・J・ガーゲン、メアリー・ガーゲン『現実はいつも対話から生まれる』ディスカヴァー・トゥエンティワン、2018。 ・パウロ・フレイレ『伝達か対話か—関係変革の教育学』垂紀書房、1982。 ・ケイト・マーフィー『LISTEN—知性豊かで創造力がある人になれる』日経 BP、2021。				
自己紹介	専門は社会教育、地域研究(ブラジルアマゾン)で、鹿大では「社会教育実習Ⅱ」、「多文化共生の地域づくり」「地域づくりと NPO」「海外研修(ブラジル)」等の授業を担当しています。県内では鹿児島県社会教育委員やかごしま外国人材受入活躍推進会議委員等を務めています。				
受講生へ一言	受講いただく皆さんの奄美に関する課題意識や、環境文化の価値に対する思いから多くを学ばせていただきたいと思います。よろしくお願いします。				

## 奄美環境文化教育プログラム シラバス

基幹プログラム:環境文化の創造と協働形成					
科目名	生涯学習支援論2	科目 番号	116	時間 数	1.5
担当講師	酒井 佑輔				
所属・職名	法文学部法経社会学科・准教授				
目的・内容	生涯学習支援論2では、生涯学習支援論1で学んだ内容を踏まえたうえで現地研修の振り返りを行います。グループワークを行いますので、Zoomでのビデオカメラをオンにし、声を出することができる環境での受講をお願いします。				
受講方法	<input checked="" type="checkbox"/> オンライン討議 ZOOM アプリを使った同時配信講義です。 マイクで声を出せる環境をご準備ください。カメラで顔を出せる環境も推奨します。 (ZOOMのIDは、『eden』のお知らせ機能を通じて、通知します) ※講義で録画し、後日、期間中いつでも視聴できるようにします。				
事前に読んでおく 授業の理解の手助け になる図書	東山紘久『プロカウンセラーの聞く技術』創元社、2000。 ・中田豊『対話型ファシリテーションの手ほどき』ムラのミライ、2015。 ・安斎勇樹・塩瀬隆之『問いのデザイン 創造的対話のファシリテーション』学芸出版社、2020。 ・ケネス・J・ガーゲン、メアリー・ガーゲン『現実はいつも対話から生まれる』ディスカヴァー・トゥエンティワン、2018。 ・パウロ・フレイレ『伝達か対話か—関係変革の教育学』垂紀書房、1982。 ・ケイト・マーフィー『LISTEN—知性豊かで創造力がある人になれる』日経 BP、2021。				
自己紹介	専門は社会教育、地域研究(ブラジルアマゾン)で、鹿大では「社会教育実習Ⅱ」、「多文化共生の地域づくり」「地域づくりと NPO」「海外研修(ブラジル)」等の授業を担当しています。県内では鹿児島県社会教育委員やかごしま外国人材受入活躍推進会議委員等を務めています。				
受講生へ一言	受講いただく皆さんの奄美に関する課題意識や、環境文化の価値に対する思いから多くを学ばせていただきたいと思います。よろしくお願いします。				

## 奄美環境文化教育プログラム シラバス

基幹プログラム:環境文化の創造と協働形成					
科目名	経済の視点から考える環境文化	科目番号	117	時間数	3 時間
担当講師	小栗有子・馬場 武・佐野雅昭				
所属・職名	鹿児島大学法文学部・准教授 鹿児島大学法文学部・講師 鹿児島大学水産学部・教授				
目的・内容	本講義は、奄美の「環境文化」を島の経済という観点からその意味や可能性について考えることが目的です。講義では、奄美群島の自立的発展という側面から地域資源としての「環境文化」に光を当て、資本主義経済の中でその地域資源を利活用することの意味や問題を取り上げます。また、経済競争の中における離島という位置の特性を流通という視点から確認します。そのうえで、島のこれからの経済的発展の方向性とそこにおける「環境文化」の可能性について、受講生と一緒に考えていきます。				
受講方法	<input checked="" type="checkbox"/> ライブ授業 ZOOM アプリを使った同時配信・参加型の授業です。 マイクで声を出せる環境をご準備ください。カメラで顔を出せる環境も推奨します。 (ZOOM の ID は、『eden』のお知らせ機能を通じて、通知します) ※講義で録画し、後日、期間中いつでも視聴できるようにします。				
事前に読んでおくと授業の理解の手助けになる図書	プログラム開始後、講師より提示します。				
自己紹介	小栗有子は 101 に同じ。				
受講生へ一言	今回新たに開設するこの講義は、とても楽しみにしている科目の一つです。奄美の「環境文化」は、島の経済発展にどのように寄与することができるのか。地域に根ざした研究を続ける経営学者と経済学者と本音で一緒に語りましょう！				

## 奄美環境文化教育プログラム シラバス

基幹プログラム:環境文化を体験する					
科目名	奄美環境文化実習(奄美大島)	科目番号	118	時間数	12 時間
担当講師	久伸博 小栗有子				
所属・職名	奄美市立奄美博物館・館長 鹿児島大学法文学部法経社会学科・准教授				
目的・内容	<p>講義の目的は、座学で学んだ奄美の「環境文化」について、巡検(フィールドワーク)による身体感覚を通して理解を深め、島・シマ(集落)ごとの特性や固有の価値を見出し、表現できることです。実習では、「環境文化」の読み方を実地で学び、「環境文化」の生成過程とその継承・断絶・再創造の条件や意味について検討します。また、島やシマ(集落)の若手経営者らとの交流、並びに、受講生同士の交流を通して、出身の島や自己理解について認識を深めます。</p> <p>実習の内容は、島の特徴的な自然地理条件のスポットをバスで巡り、生活文化とのかかわりを確認し、方言・芸能・生業等の「環境文化」を体験します。また、シマの方とのふれあい(聞き取り調査含む)を通して、目に見えない「環境文化」の存在に触れる一方で、「環境文化」を事業に結びつけて活躍する方の経験に学び、意見交換を行います。なお、実習にあたっては、新型コロナウイルス感染症防止対策を徹底して実施します。</p>				
受講方法	<input checked="" type="checkbox"/> 現地研修 対面での現地実習で、2 日間連続の合宿形式です。 なお、奄美環境文化実習は、奄美大島・喜界島・徳之島・沖永良部島・与論島のうち、希望する会場を二つ以上選択の上、受講してください。				
事前に読んでおく授業の理解の手助けになる図書	すでに受講した科目について、復習をしておくことをお勧めします。				
自己紹介	自己紹介は、101、102 に同じ。				
受講生へ一言	この実習は、対面で実施する唯一の機会であり、島・シマ(集落)の方々とはもちろんのこと、受講生同士の貴重な交流の機会でもあります。皆さんにとって素敵な出会いの詰まった実習になることを願っています。				

## 奄美環境文化教育プログラム シラバス

基幹プログラム:環境文化を体験する					
科目名	奄美環境文化実習(徳之島)	科目番号	119	時間数	12 時間
担当講師	小栗有子 具志堅 亮				
所属・職名	鹿児島大学法文学部法経社会学科・准教授 天城町教育委員会・学芸員				
目的・内容	<p>講義の目的は、座学で学んだ奄美の「環境文化」について、巡検(フィールドワーク)による身体感覚を通して理解を深め、島・シマ(集落)ごとの特性や固有の価値を見出し、表現できることです。実習では、「環境文化」の読み方を実地で学び、「環境文化」の生成過程とその継承・断絶・再創造の条件や意味について検討します。また、島やシマ(集落)の若手経営者らとの交流、並びに、受講生同士の交流を通して、出身の島や自己理解について認識を深めます。</p> <p>実習の内容は、島の特徴的な自然地理条件のスポットをバスで巡り、生活文化とのかかわりを確認し、方言・芸能・生業等の「環境文化」を体験します。また、シマの方とのふれあい(聞き取り調査含む)を通して、目に見えない「環境文化」の存在に触れる一方で、「環境文化」を事業に結びつけて活躍する方の経験に学び、意見交換を行います。なお、実習にあたっては、新型コロナウイルス感染症防止対策を徹底して実施します。</p>				
受講方法	<input checked="" type="checkbox"/> 現地研修 対面での現地実習で、2 日間連続の合宿形式です。 なお、奄美環境文化実習は、奄美大島・喜界島・徳之島・沖永良部島・与論島のうち、希望する会場を二つ以上選択の上、受講してください。				
事前に読んでおく 授業の理解の手助け になる図書	すでに受講した科目について、復習をしておくことをお勧めします。				
自己紹介	自己紹介は、101 に同じ。				
受講生へ一言	この実習は、対面で実施する唯一の機会であり、島・シマ(集落)の方々とはもちろんのこと、受講生同士の貴重な交流の機会でもあります。皆さんにとって素敵な出会いの詰まった実習になることを願っています。				

## 奄美環境文化教育プログラム シラバス

基幹プログラム:環境文化を体験する					
科目名	奄美環境文化実習(与論)	科目番号	120	時間数	12 時間
担当講師	小栗有子				
所属・職名	鹿児島大学法文学部法経社会学科・准教授				
目的・内容	<p>講義の目的は、座学で学んだ奄美の「環境文化」について、巡検(フィールドワーク)による身体感覚を通して理解を深め、島・シマ(集落)ごとの特性や固有の価値を見出し、表現できることです。実習では、「環境文化」の読み方を実地で学び、「環境文化」の生成過程とその継承・断絶・再創造の条件や意味について検討します。また、島やシマ(集落)の若手経営者らとの交流、並びに、受講生同士の交流を通して、出身の島や自己理解について認識を深めます。</p> <p>実習の内容は、島の特徴的な自然地理条件のスポットをバスで巡り、生活文化とのかかわりを確認し、方言・芸能・生業等の「環境文化」を体験します。また、シマの方とのふれあい(聞き取り調査含む)を通して、目に見えない「環境文化」の存在に触れる一方で、「環境文化」を事業に結びつけて活躍する方の経験に学び、意見交換を行います。なお、実習にあたっては、新型コロナウイルス感染症防止対策を徹底して実施します。</p>				
受講方法	<p><input checked="" type="checkbox"/>現地研修</p> <p>対面での現地実習で、2日間連続の合宿形式です。</p> <p>なお、奄美環境文化実習は、奄美大島・喜界島・徳之島・沖永良部島・与論島のうち、希望する会場を二つ以上選択の上、受講してください。</p>				
事前に読んでおく授業の理解の手助けになる図書	すでに受講した科目について、復習をしておくことをお勧めします。				
自己紹介	自己紹介は、101に同じ。				
受講生へ一言	この実習は、対面で実施する唯一の機会であり、島・シマ(集落)の方々とはもちろんのこと、受講生同士の貴重な交流の機会でもあります。皆さんにとって素敵な出会いの詰まった実習になることを願っています。				

## 奄美環境文化教育プログラム シラバス

基幹プログラム:環境文化を体験する					
科目名	奄美環境文化実習(喜界島)	科目番号	121	時間数	12 時間
担当講師	小栗有子				
所属・職名	鹿児島大学法文学部法経社会学科・准教授				
目的・内容	<p>講義の目的は、座学で学んだ奄美の「環境文化」について、巡検(フィールドワーク)による身体感覚を通して理解を深め、島・シマ(集落)ごとの特性や固有の価値を見出し、表現できることです。実習では、「環境文化」の読み方を実地で学び、「環境文化」の生成過程とその継承・断絶・再創造の条件や意味について検討します。また、島やシマ(集落)の若手経営者らとの交流、並びに、受講生同士の交流を通して、出身の島や自己理解について認識を深めます。</p> <p>実習の内容は、島の特徴的な自然地理条件のスポットをバスで巡り、生活文化とのかかわりを確認し、方言・芸能・生業等の「環境文化」を体験します。また、シマの方とのふれあい(聞き取り調査含む)を通して、目に見えない「環境文化」の存在に触れる一方で、「環境文化」を事業に結びつけて活躍する方の経験に学び、意見交換を行います。なお、実習にあたっては、新型コロナウイルス感染症防止対策を徹底して実施します。</p>				
受講方法	<p><input checked="" type="checkbox"/>現地研修</p> <p>対面での現地実習で、2日間連続の合宿形式です。</p> <p>なお、奄美環境文化実習は、奄美大島・喜界島・徳之島・沖永良部島・与論島のうち、希望する会場を二つ以上選択の上、受講してください。</p>				
事前に読んでおく授業の理解の手助けになる図書	すでに受講した科目について、復習をしておくことをお勧めします。				
自己紹介	自己紹介は、101に同じ。				
受講生へ一言	この実習は、対面で実施する唯一の機会であり、島・シマ(集落)の方々とはもちろんのこと、受講生同士の貴重な交流の機会でもあります。皆さんにとって素敵な出会いの詰まった実習になることを願っています。				

## 奄美環境文化教育プログラム シラバス

基幹プログラム:環境文化を体験する					
科目名	奄美環境文化実習(沖永良部島)	科目番号	122	時間数	12 時間
担当講師	小栗有子				
所属・職名	鹿児島大学法文学部法経社会学科・准教授				
目的・内容	<p>講義の目的は、座学で学んだ奄美の「環境文化」について、巡検(フィールドワーク)による身体感覚を通して理解を深め、島・シマ(集落)ごとの特性や固有の価値を見出し、表現できることです。実習では、「環境文化」の読み方を実地で学び、「環境文化」の生成過程とその継承・断絶・再創造の条件や意味について検討します。また、島やシマ(集落)の若手経営者らとの交流、並びに、受講生同士の交流を通して、出身の島や自己理解について認識を深めます。</p> <p>実習の内容は、島の特徴的な自然地理条件のスポットをバスで巡り、生活文化とのかかわりを確認し、方言・芸能・生業等の「環境文化」を体験します。また、シマの方とのふれあい(聞き取り調査含む)を通して、目に見えない「環境文化」の存在に触れる一方で、「環境文化」を事業に結びつけて活躍する方の経験に学び、意見交換を行います。なお、実習にあたっては、新型コロナウイルス感染症防止対策を徹底して実施します。</p>				
受講方法	<p><input checked="" type="checkbox"/> 現地研修</p> <p>対面での現地実習で、2 日間連続の合宿形式です。</p> <p>なお、奄美環境文化実習は、奄美大島・喜界島・徳之島・沖永良部島・与論島のうち、希望する会場を二つ以上選択の上、受講してください。</p>				
事前に読んでおくと授業の理解の手助けになる図書	すでに受講した科目について、復習をしておくことをお勧めします。				
自己紹介	自己紹介は、101 に同じ。				
受講生へ一言	この実習は、対面で実施する唯一の機会であり、島・シマ(集落)の方々とはもちろんのこと、受講生同士の貴重な交流の機会でもあります。皆さんにとって素敵な出会いの詰まった実習になることを願っています。				



## 奄美環境文化教育プログラム シラバス

基幹プログラム:環境文化を体験する					
科目名	環境文化総合討論 4	科目 番号	123	時間 数	2 時間
担当講師	小栗有子				
所属・職名	鹿児島大学法文学部法経社会学科・准教授				
目的・内容	<p>本講義は、奄美環境文化実習(118~122)を踏まえた総合講義です。5つの島をめぐり、各自が経験したことを改めて振り返り、受講者と共有します。</p> <p>また、実習を通してわからなかったことや疑問等について解消するとともに、奄美の「環境文化」を捉える視点やその特徴を確認し、奄美の「環境文化」のブランディングの可能性と課題について検討します。</p>				
受講方法	<p><input checked="" type="checkbox"/>ライブ授業</p> <p>ZOOM アプリを使った同時配信・参加型の授業です。                      マイクで声を出せる環境をご準備ください。カメラで顔を出せる環境も推奨します。                      (ZOOM の ID は、『eden』のお知らせ機能を通じて、通知します)                      ※講義で録画し、後日、期間中いつでも視聴できるようにします。</p>				
事前に読んでおくと 授業の理解の手助け になる図書	奄美環境文化実習(118~122)において配布された資料等に再度目を通すようにしてください。				
自己紹介	自己紹介は、101 に同じ。				
受講生へ一言	参加できなかった奄美環境文化実習のことを参加した受講生から話を聞くことで、5つの島の実習について共有し、比較する機会にしましょう。				

## 奄美環境文化教育プログラム シラバス

基幹プログラム:実生活につながる環境文化					
科目名	修了課題 1・環境文化を実装するために	科目番号	124	時間数	3 時間
担当講師	小栗有子ほか				
所属・職名	鹿児島大学法文学部法経社会学科・准教授				
目的・内容	<p>既に学び終えた①文化と歴史から読み解く環境文化、②自然から読み解く環境文化、③環境文化の創造と協働形成、④環境文化を体験するまでを受けて、いざ各自の仕事(キャリア)や暮らしにこれまでの学びをいかに生かすことができるのか。その前提として、この 4 か月の学びから何を得たのか。本講義は、これまでの講義を振り返り、獲得したマインド、知識、スキルを確認します。</p> <p>そのうえで、各自が本プログラムを通して発見した奄美「環境文化」の価値を確認し、その生かし方について考えをまとめ、自己表現するための準備を行います。ここでいう自己表現とは、作成した図や文章を用いて、自分の考えを第三者に伝えられることを意味し、修了課題のことを指します。</p> <p>本講義の目的は、これからの作業内容(科目 123、124)について理解し、各自の考えや理解を整理していくための見通しをもつことです。講義は、自己の振りと受講生同士の意見交換を中心に進め、これまで講義を担当した講師陣も適宜参加します。</p>				
受講方法	<p><input checked="" type="checkbox"/>ライブ授業</p> <p>ZOOM アプリを使った同時配信・参加型の授業です。 マイクで声を出せる環境をご準備ください。カメラで顔を出せる環境も推奨します。 (ZOOM の ID は、『eden』のお知らせ機能を通じて、通知します) ※講義で録画し、後日、期間中いつでも視聴できるようにします。</p>				
事前に読んでおく授業の理解の手助けになる図書	プログラム開始後、講師より提示します。				
自己紹介	自己紹介は 101 に同じ。				
受講生へ一言	この講義では、これまで講義を担当した講師陣が参集します。プログラムを通して学んだことを仲間の力も借りながら整理し、次のステップに進んでいけるようにしましょう！講師陣との再会もお楽しみに！				

## 奄美環境文化教育プログラム シラバス

基幹プログラム:実生活につながる環境文化					
科目名	修了課題 2・環境文化を実装するために	科目番号	125	時間数	3 時間
担当講師	小栗有子 R3 年度奄美環境文化教育プログラムの各島の修了生ほか				
所属・職名	鹿児島大学法文学部法経社会学科・准教授				
目的・内容	本講義は、科目 124 に引き続き、プログラムを通して考えたことや学んだことを整理し、それらを各自の仕事(キャリア)や暮らしにどのような結びつけていくのかを検討する時間です。本講義は、奄美群島の 5 つの島を会場(対面)にして、会場同士をオンラインでつなぎます。各会場には、令和3年度に当該教育プログラムを修了した第 1 期生も参集し、各々の活動紹介もしながら、島毎、島同士の交流を深めます。				
受講方法	<input checked="" type="checkbox"/> ライブ授業 ZOOM アプリを使った同時配信・参加型の授業です。 マイクで声を出せる環境をご準備ください。カメラで顔を出せる環境も推奨します。 (ZOOM の ID は、『eden』のお知らせ機能を通じて、通知します) ※講義で録画し、後日、期間中いつでも視聴できるようにします。 ※一部対面参加の会場あり				
事前に読んでおく授業の理解の手助けになる図書	プログラム開始後、講師より提示します。				
自己紹介	自己紹介は 101 に同じ。				
受講生へ一言	この講義は、奄美群島の各島(奄美大島、喜界島、徳之島、沖永良部島、与論島)にお住まい、もしくは、活動されている方々とリアルに出会う機会となります。昨年度当該プログラムを受講したメンバーも集うので、新しい出会いや発見が期待できると思います。ぜひ楽しみましょう！				

## 奄美環境文化教育プログラム シラバス

基幹プログラム:実生活につながる環境文化					
科目名	修了課題発表会	科目 番号	126	時間 数	3 時間
担当講師	小栗有子ほか				
所属・職名	鹿児島大学法文学部法経社会学科・准教授				
目的・内容	<p>講義では、本教育プログラムの一つの締めくくりとして、プログラム全体を通して、また、科目 123 と 124 の準備期間を経て温めた各自の奄美の「環境文化」理解とそれに基づき発見した価値について紹介し、それらを仕事や暮らしへ生かしていくための発表・提案を行う。発表では、奄美「環境文化」の価値を新たな仕事づくりや生活・地域課題の解決などの創造的な解決に生かすことが期待される。</p>				
受講方法	<p><input checked="" type="checkbox"/>ライブ授業                      ZOOM アプリを使った同時配信・参加型の授業です。                      マイクで声を出せる環境をご準備ください。カメラで顔を出せる環境も推奨します。                      (ZOOM の ID は、『eden』のお知らせ機能を通じて、通知します)                      ※講義で録画し、後日、期間中いつでも視聴できるようにします。</p>				
事前に読んでおく 授業の理解の手助け になる図書	プログラム開始後、講師より提示します。				
自己紹介	101 に同じ。				
受講生へ一言	この講義を通して、プログラム修了後も、必要な時に必要な仲間と一緒に学び続けられることのできる関係を確認できればなと思っています。				